

(史料紹介)

翻 刻

身延山久遠寺身延文庫蔵

「西土蔵宝物録」

「當山歴代等漫荼羅録」

「宝蔵并中央之間廊下拝殿一切経堂 古佛堂録・会合所位牌録

・方丈位牌堂録・書写并摺写経録」

望 月 真 澄

(凡例)

一 この翻刻は、山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七 日蓮宗総本山身延山久遠寺身延文庫所蔵文書「西土蔵宝物録」  
「當山歴代等漫荼羅録」「宝蔵并中央之間廊下拝殿一切経堂 古佛堂録・会合所位牌録・方丈位牌堂録・書写并摺写  
経録」を底本としたものである。

底本の閲覧・解説にあたり、所蔵者である身延山久遠寺当局、特に身延文庫長の切刀貞如上人、宝物館学芸員の  
渡邊行祥上人にはお世話になった。その学恩に謝する次第である。

史料紹介(望月)

一 翻刻にあたっては次のようにした。

・各葉毎に終わりを』のように示し、丁の終わりを』で示した。

・漢字や仮名・変体仮名は通行のものに直した。片仮名表記を漢字に改めた場合もある。

・原本の漢字が摩滅・破損・虫喰い等で判読できない箇所は、その字数を推測して、□ 又は □□□□のように示し、字数がわからない場合は「」で示した。

・異筆・朱書・貼紙は「」で囲み、特に朱書は（朱書）、貼紙は（貼紙）、抹消は（抹消）と示した。

・明らかに脱字と思われる箇所は、「」で囲み、その中に文字を補った。

・解題を翻刻の後に付した（次号）。

・冒頭から第二長持までは、昭和定本『日蓮聖人御遺文』第三卷（二七五六―二七六〇頁）に収録されているが、原本と照合してみると、編集の関係か解読の体裁が現史料に忠実に表現されてなく、誤字も認められたので改めて収録することにした。

・この翻刻で、史料照合のための合点や項目を示す△は省略し、判読できない箇所は、□<sup>△</sup>とした。

一 現在、この史料は「西土藏宝物録」（二十一丁）・「当山歴代等漫荼羅録」（六丁）「宝蔵井中央之間廊下拝殿一切経堂 古佛堂録・会合所位牌録・方丈位牌堂録・書写并摺写経録」（三十九丁）の三冊が合冊となり、一緒に綴じられている。正徳二年（一七一一）に三十三世日亨が身延山久遠寺内の宝物を確認したものと考えられる。よってこれらは関連する資料のため合冊したと考えられるが、今回は「西土藏宝物録」と「当山歴代等漫荼羅録」を紹介し、次回に「宝蔵井中央之間廊下拝殿一切経堂 古佛堂録・会合所位牌録・方丈位牌堂録・書写并摺写経録」を紹介したい。

と思う。

紙数全墨付六十六丁

全体の法量 縦二十九・〇センチメートル 横二十・五センチメートル

(表紙張外題)

靈宝目録 (五) 亨師筆

西土藏寶物録

身延山久遠寺

正徳二庚辰年冬改之

三十三世

日亭(花押)

西土藏惣目録

(身延文庫印)

第一

一 長持 黒塗井桁橘金紋

内 宗祖漫荼羅并祖書入

史料紹介(望月)

第二

長持

黒塗并桁橘金紋  
内宗祖書入

第三

長持

黒塗慈姑紋「葵御紋付」  
内歴代漫荼羅等入

第四

長持

黒塗桐紋  
内名筆妙経舍利御太刀綸旨御朱印等入

第五

長持

白木「三ノ長持此第五卜賛 慈姑」  
内水戸君并御簾中書写之妙経七寶数珠等入

第六

長持

白木 紋付 九曜桐洞  
内十六羅漢古法眼絵類古名筆類入

合六棹也

一

旗漫荼羅

桐箱入

武江本所最教寺  
日亨代

日示

之納

一

簞笥

代々筆聖教

四十箱

一 箱 代々聖教

大小 二十四函

一 箱

七函

一 右箱入之外聖教<sup>二</sup> 棚有之

二

第一長持之内

「弘安四<sup>太才</sup>十一月日」

一 函 四幅

真之首題大漫荼羅

建治元年<sup>太歲</sup>乙亥十一月日

文永十年<sup>太歲</sup>癸酉七月八日

「絹地惣南無」

「宗祖御一代最初本尊也」

弘安三年<sup>太歲</sup>庚辰十月日

「俗日用」

二 函 五幅

建治二年<sup>絹地</sup>丙子九月日

日命授與「弘安三年<sup>太才</sup>庚辰五月十八日」

紺紙金字「年号無之」

史料紹介（望月）

弘安 文字損欠 此本尊請雨ノ時掛<sub>レ</sub>之  
云三蛇形之本尊

日傳授與「弘安四年<sub>太才</sub>辛巳四月五日」

三函 八幅 日春授與「弘安二年<sub>太才</sub>己卯七月日」

文永十一年「甲戌」十二月日

建治元年「<sub>太才</sub>乙亥」十一月日

建治元年「<sub>太才</sub>乙亥十二月日」

建治二年「<sub>太才</sub>丙子」七月日

弘安三年「<sub>太才</sub>庚辰」二月日 「童男福満 主日棟」

三枚継

當山興起御消息 「御宝藏是有」

「」

## 四函 八幅

半如意珠 「年号無」

建治 絹地 「建治二年<sub>太才</sub>丙子八月十二日

大学三郎重佐授与之」

四

建治二 横紙 「建治太才丙子八月廿五日」

弘安二「太才  
己卯四月日」

弘安絹地「太才  
己卯二月日 優婆塞日戴」

同日三幅 文永十一年十一月日 「宝蔵有」

此外波木井日教授与雖在此箱

日省代水戸君江被進之故ニ除之

五函 六幅 御所御返事 「十二月三日 御名判」

天台傳

大力事

高麗國王 狀 「至元四月九日 啓」

法華題目抄 十五行

金餅御消息 「正月十一日 御名判」

六函 八幅 親等八行

朗師墨跡中有御筆

寶前江申上等 「十月十六日 御名判」

史料紹介（望月）

撰論三卷等 「七月十七日 御名判」

綸鶴傳 「弘六三至治世八行半三字」

西山殿御返事 「五行半十一月廿三日 御名判」

佐渡房 「四行半字」

御判形「御名有リ」

此外傳教等二行二十字消息雖在此箱中

日亨代寺杜司本多彈正少弼殿懇望故

無余儀進之故除之

五

七函三幅 高橋入道殿 廿三行瑞書共ニ廿三行

十一月四日 判形有之

中務左衛門殿 廿四行 「十月廿日 御名判」

外ニ端書判形有之

鏡御影 「裏書遠師」

漫荼羅 二十五幅

右 消息 十六幅 合四十二幅

鏡御影 一幅



第二長持之内

一函六卷

「録内第一」  
立正安國論  
卷首ニ送狀  
有之

一卷

「二三」  
(朱書)

開目抄

一二三四

四卷

「四五」  
(朱書)

撰時抄

一卷

二函六卷

「六七」  
(朱書)

報恩抄

一二三四

四卷

「九卷」  
(朱書)

法華取要抄

一卷

「十卷」  
(朱書)

守護國家論

一卷

六

三函八卷

「録内十二卷」  
(朱書)

顯謗法抄

上下

二卷

同御草案

一卷

史料紹介(望月)

〔十四卷〕

佐渡御勘気書

又号星下御書  
又号依智御書

一卷

〔十五卷〕

法蓮抄

一卷

〔十六卷〕

祈禱抄

一卷

〔十七卷〕

四條金吾殿御書

怨嫉大陣既破事

一卷

〔十九卷〕

御祈禱抄奥

一卷

## 四函八卷

〔十九卷〕  
崇峻天皇御書

一卷

〔二十卷〕

光日房御書

二卷

〔廿二卷〕

阿弥陀堂法印祈雨事

一卷

〔廿三卷〕

種々御振舞御書

一卷

五函十四卷

「廿四卷」

太田禪行御書御草案

一卷

「廿七卷」

諫曉八幡抄

一卷

「廿七卷」

顯佛未來記

一卷

「廿八卷」

四條金吾釈迦佛供養事

一卷

「廿八卷」

同妻女釈迦佛供養事

一卷

「廿八卷」

治病抄御草案

一卷

強仁抄御草案

一卷

「卅三卷」

波木井殿御書

代筆也

一卷

「卅三卷」

清澄寺大衆御中

一卷

史料紹介（望月）

〔卅四卷〕（朱書）

王舍城事

一卷

〔卅八卷〕（朱書）

爾前二乘菩薩不作佛事

一卷

〔卅九卷〕（朱書）

四條金吾殿御書

一卷

〔四十卷〕（朱書）

聖密房御書

一卷

〔四十卷〕（朱書）

地引御書

一卷

方便品壽量品長行

初二送狀  
有之

一卷

御葬送次第記

一卷

以一察万抄

法華取要抄ノ御草案歟

一卷

〔録外四卷〕（朱書）

光日房御返事 無間地獄事有之

一卷

〔十二卷〕（朱書）

新尼御前御返事

一卷

〔十四卷〕（朱書）

六函十四卷

御消息 八風事

一卷

〔九卷〕  
(家書)

妙心尼御返事

一卷

一代五時圖

一卷

新尼御前御返事 身延並安州事

一卷

大師講番帳

一卷

天反地天御書

一卷

天變地天瑞相御書與ニ日本記等拔書一卷

有之

行敏狀御會通等

一卷

聖密房御書

一卷

諸宗折伏御書

一卷

御書 初二 (マ) 始ヘシトアリ

一卷

御書 初二 今年春始トアリ

一卷

七函十一卷 行敏御返參

日本佛法伝来次第事

一卷

漢地日域傳法事

一卷

史料紹介(望月)

集御書 初二所引法華論トアリ

一卷

集御書 初二道澄トアリ

一卷

集御書 七切

一卷

蘇我大臣御書

一卷

雑々書 初二日蓮拝見トアリ

一卷

雑々書 初二花ハ末トアリ

一卷

八重十重戒事

一卷

群疑論要文

一卷

華嚴經拔書

一卷

涅槃疏拔書 初二文永元年

一卷

涅槃疏拔書

一卷

止弘拔書

一卷

文句要文

一卷

文句要文等

一卷

觀念並止觀要文

一卷

聖教 初解一分トアリ

一卷

聖教 初從後漢トアリ

一卷

九函八卷

聖教 初宝又トアリ

一卷

聖教 初経如日初出トアリ

一卷

止観問要等

一卷

止観問要

一卷

止観問要

一卷

問要集

一卷

諸文類聚

一卷

傳記類聚 初ニ漢法本内傳トアリ

一卷

傳記類聚

一卷

外典類聚

一卷

十函十卷

周書異記

一卷

西域記拔

一卷

辨二教論

一卷

年八分度者

一卷

高麗國狀

一卷

守護章拔

一卷

史料紹介（望月）

心地教行決

一卷

山門許狀

一卷

山門許狀

一卷

圓澄和上啓上

一卷

十二函九冊

宗要

九冊

十二函十五冊

正法華經要文

一冊

悲華經 要文

一冊

淨名經

一冊

一經四論要文

一冊

大論要文

一冊

華嚴疏要文

一冊

撰論

一冊

教時義 要文

一冊

太子義疏

一冊

天台梵網疏要文

一冊

羣疑論

一冊

真言要文

一冊

文句要文

一冊

内外典雜記

一冊



淨土論義

一冊

傳大志心王佛論等

一冊

雜々見聞

一冊

天台學生式

一冊

羣議論拔

一冊

十三函十二冊  
雨祈禱事

一冊

西域記拔

一冊

諸要文

一冊

雜々要文

一冊

大日經疏

三冊

貞觀政要

一冊

臣軌

一冊

唐鏡

一冊

史記拔

一冊

疏記等要文

一冊

玄義宝抄

一冊

文句要文

一冊

史料紹介(望月)

玄義等要文

一冊

問要端々

一冊

華嚴要文

」

十二

右合 卷本 九十六卷 惣一百三十二  
絨本 三十六冊

寛文十二壬子歳孟春廿九世日延師改正之

目錄如斯

(別筆)

一 祖師御筆妙経一部八卷 但□□卷

一 御消息 三十九字 一幅

一 華嚴御消息

黒塗輪寶時絵金字金入袋入

外紫縮緬フクサ四十三世日見代施主有裏書ニ

一 御消息 生死一大事等 三幅

從字に至りの五行 幸麦南天  
字に一切の法を等 之模様唐絵  
箱入

一 祖師袈裟之切

右泉州堺桔梗屋与津女納之 四十五世日応師代

一 御目鏡一

一圓庵常什御消息一幅

右四品箱入亨師由来書有之

此目錄二落書ス依之爰記之

「一祖師御筆鬼子母十女画像一幅

加州金沢開帳之砌納焉

御母公延寿四ヶ年守

黒塗慈姑紋

四〇木一番町板屋安右衛門

寛政八辰年四十九世

日地代

第三長持

一 當山歴代漫荼羅

別二 目録有之又箱ノ内ニ委細目録有之

此漫荼羅之内金字乾師漫荼羅此藏掛置

外ニ 本満寺日秀師 一幅

平賀日隆師 一幅

一 日向日善日台日叡等代々雑々筆 一箱

一 訓読假名本妙経二部入 後伏見院宸翰 一箱

一 摺本妙経一部 一箱

十三 経之裏 後光嚴院宸翰也 仮名書有之

一 乾師 本堂 大漫荼羅 「焼失」 二幅

一 脱師宝蔵大漫荼羅 「焼失」 一幅

一 奠師漫荼羅 蓮糸地 「歴代ノ三幅へ加ル」 一幅

一 脱師玄号 蓮糸地 一幅

史料紹介(望月)

史料紹介（望月）

一 祖師繪像 花瓶蛇形  
狩野隼人筆

一幅

「二 祖師御一代繪 土佐之筆 六軸

「箱」

日應師井上昌哲納之

第四長持 黒塗桐紋

一 藥草喻品 聖德太子筆

紋所金字傳教大師筆

一 法華并開結三部一卷 青蓮院宮證判并從<sub>二</sub>青蓮院宮<sub>一</sub>

紀伊養珠院殿江御書有之

一 佛舍利 水精塔入日遠師添狀有之

右三種同箱入

一 金字法華經一部一卷 菅相丞北野天神筆  
五條殿証狀有之

箱入

一 法華第五卷一卷 光明皇后筆

箱入

一 兩佛等體內収之妙經 庚永三年  
同年日審筆 教卷有之有之 損失

箱入

十四

一 勅筆之妙題 人王百八代後陽成院宸翰也紀伊養珠院殿  
願<sub>二</sub>請之<sub>一</sub>寄進南無字有之日遠師裏書鄭重也

一 佛舍利數粒有之金塔入由來數等書付有之

箱入

一 舍利殿厨子也中<sub>二</sub>舍利<sub>一</sub>有之

- 一 釋尊小像 赤梅檀ノ像厨子入
- 一 鬼子母十女絵像 蓮祖真筆 狩野法眼永真安修同清右衛門添狀  
箱入 有之江府祈禱者義道収之
- 一 宗祖御太刀二腰并莊飾ノ二具 袋有之箱入
- 一 宗祖尺八日暹御代信州諏訪上村新右衛門納之 箱入
- 一 宗祖系圖 二通 朝師筆 箱入 「此式通合而一卷也」
- 一 同系図 一軸 朝師筆 「但次下同系図一軸ト有之も  
右ノ一卷ノ内ニ合ス」
- 一 波木井日圓讓狀  
日圓並當山代々讓狀等一軸 二軸同箱入
- 一 日圓讓狀二通日向師讓狀二通日向師撰折二行一通日進師製法二通  
日善師讓狀一通
- 一 日台師夢記之写 日意師筆 箱入
- 一 日興聖人書札之写 日意師筆 箱入
- 一 題目點畫 朝師筆 一軸  
波木井代々名帳 朝師筆一軸 二軸箱入
- 一 身延山御祈禱傳授 叙師筆 箱入  
切紙傳授
- 一 御祈禱経 遠師筆 箱入
- 一 御綸旨 賜紫衣綸旨 日脱 日省 一箱 箱ハ  
賜永紫衣綸旨 日亨 幸阿弥与兵衛

御老中口宣奉書二通 日省 日亭 寄進

一 勅願寺繪旨

表箱 寄進  
武江伊丹宗恵

人王百十五台御諱 慶仁

東山院第六ノ皇子

御母ハ新崇賢門院櫛笥大納言隆賀卿女

寶永七庚寅年十一月十一日御即位此年寶算 十一歳

此ノ御即位之前ノ御祈禱日亭在京之節於満願寺ニ從ニ

御幼体之御時ニ御祈禱奉ニ執行ニ之薰功故御即位之御祈禱

宣ニ下久遠寺并満願寺ニ身延傳 奏坊城家奉書ニ其趣

委悉也寶永八卯辛年日亭上京四月廿四日参 内於ニ

清涼殿ニ親奉ニ拜ニ 玉體ニ其後御持之御末廣拝領

匂當内侍奉書并坊城大納言從二位俊清卿之添狀

拝受女奉書被ニ成下ニ希奇之儀延山之規模也

坊城家添狀法華宗大導師文言一宗永代之

光顯也又御撫物加持宣下又一宗眉目盛事

坊城家奉書顯然也又依ニ御祈念ニ天氣晴明等之

勅詔一宗効驗顯然可レ為ニ末代之龜鏡ニ

一 御朱印 数通 目録有之 一箱

一 御朱印 一箱  
 缺箱狭少故為後代  
 日亨代勸之重テ作ル

二箱共ニ幸阿弥与兵衛寄進

小

一 手鏡 宗祖以来代々 箱入

一 蓮祖真翰八切 日意 一 日傳 二 日鏡 一 日叙 一 日整 一 日新 一

一向師筆 三切 日賢 一 日道 一 日重 一 日乾 一 日遠 一 日祝 一

一朝師守 一幅 日要 一 日深 一 日暹 一 日境 一 日奠 一

一朝師筆本尊圖 一枚 御赦免状写叙師筆 一 玉沢日照御状

一 都鄙一致勝劣和睦之書物 一 同添状松永霜台

久秀

一 池上日現御状

一 大 手鏡等 信玄梅雪等 箱入

一 信君書物一通 一 信玄書物三通 一 信君書物二通 一 不白書物二通

一 制札 一通 一 勝千代朱印一通 一 制札一通 一 信玄状三通

一 信君書物一通 鳥丸亞相忠廣状一通 一 光悦状一通

「鳥丸亞相忠廣状」

光悦状壺通

右式通元与不尋候」

一 御裁許状類 通師減後住異<sup>マツ</sup>時 箱入

一 大城相俣赤沢三所材木證文 数通 箱入

一 檜皮之證文 一箱

一 流金香爐 日亨<sup>ニ</sup>納之服紗包箱入

内金之量并由來書付有之純金也

寶永五戊子年二月三日

政夷大將軍綱吉公 寶永六己丑年正月十日六十四歲<sup>ニシテ</sup>薨御

号<sup>ス</sup>淨憲院殿

松平美濃守吉保<sup>ヨシヤス</sup>後入道<sup>ニシテ</sup>宅江渡御之節日亨依<sup>テ</sup>

号<sup>ス</sup>保山

上意<sup>ニ</sup>於御前講<sup>ニ</sup>普門品題義<sup>ヲ</sup>一是一宗僧对<sup>シテ</sup>

大樹公<sup>ニ</sup>講<sup>レ</sup>經之發軔也其後吉保朝臣又請<sup>ニ</sup>日亨<sup>ヲ</sup>

聽<sup>ニ</sup>聞法談<sup>ヲ</sup>合<sup>セテ</sup>於詠歌一首<sup>ヲ</sup>賜<sup>フ</sup>之實依<sup>ニ</sup>御内意<sup>ニ</sup>

賜<sup>フ</sup>之故同<sup>ニ</sup>拜戴<sup>ニ</sup>此是宗門眉目<sup>ニ</sup>故日亨收<sup>メ</sup>之

延山永為<sup>ニ</sup>寺鎮<sup>ニ</sup>云



「女二宮御方潮師代菊ノ御紋文庫打敷可有之書物箱入」

「

徽宗皇帝筆  
鶴繪掛物

壹幅 黒塗箱入

四十五世日応師代泉州堺

一 鴨香炉 壹ツ 黒塗箱入 桔梗屋於奈津女納之

并讀一軸 安永三午五月廿五日收藏

「」

第五長持 白木

奥書云嘗聞一切諸佛功德莫大於写經也況妙法華無上之經王而三昧之妙典歟所書写妙法蓮華經一部八卷謹藏之甲州身延山久遠教寺 元禄十五年壬午初冬十三日參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣綱條拝印形二重

一 紺紙金字妙經

一部 二重箱入  
服紗包

水戸中納言綱條卿筆

日省代

奥書云

右拙丹誠手自書写厥此經者諸佛出世之本懷衆生成仏之直道也故說誦書其功用不可思議量誠當生切利天上有頼哉  
拠茲奉模写金字之

妙典一部寄附甲州身延山久遠寺梵刹伏願為現當之意望成就也

一 紺紙金字妙經

宝永九年甲申十一月  
筆主藤原夫人季君法号圓成院妙行日解

一部 二重箱入

服紗包

日亨代

史料紹介（望月）

史料紹介（望月）

水戸御簾中季君殿筆

菊亭一品右府公季公息女也  
号二林院心月弁空

一 七寶数珠 十連 各服紗包

日省代 一箱

水戸綱條卿寄進 御自筆目録一枚箱入

寶藏前具足并斗帳右同時寄進

一 一部一卷 細字 二部

一 祖書之写 三卷

雖似真翰非真筆

一 寺中法式 乾師筆 一卷 評頭箱江渡置

一 七面大明神本迹之縁起 小湊大中院日孝撰 一卷  
所化名慈忍

一 七面大明神縁起 草山元政ノ筆 一卷

「文政五壬午九月日逞代

此庵主宣修納當山江」

第六長持 白木

一 十六羅漢

一 古法眼筆小方丈繪類 三十幅

一 古筆類 机物等奇珍之類故日享代改之

西土藏収之毎年虫弘不可懈怠

右内委細入日記有之又別帳有之

十九

「別帳古来アリトイヘトモ今ハ無シ」

富士日興聖人書札之写

一閭浮提之内ニ日本國日本國之内甲斐國甲斐國之中ニ波木

井郷ハ久遠實成ノ釈迦如来ノ金剛寶座也天魔波旬モ

不可惱上行菩薩日蓮上人之御靈屈怨靈惡靈モ

ナナムヘシ天照太神之御子孫之中一切皆念仏ヲ申シ背ハ

不孝也適入道一人法花經ヲ如説信進候ハイカテカ

孝養ノ御子孫ニ不候故法花此所ヨリ弘ラセ給ヘキ源也ト

仰所作之申事ニハ候ベシ佛ハ上行無邊行淨行安立行ノ

脇士ヲ造制進セテ久成之輕邊ニ造立シ進セ給ヘシ又安國

論ノ趣ハ違マイラセ給ヘカラス惣シテ久遠寺之院主学頭ハ

未来ニテモ仰計ニテ候ヘシ

正應元年戊子十一月日 使者下野公

史料紹介（望月）

史料紹介（望月）

日興退出、同年十二月五日也

池上十一世日現聖人參詣之後御狀

累年之望故今度始而奉參詣候處種々御懇切一法談之御勸發御靈寶拜見誠以忝奉存候由日純も雜談之下向之朝者以參可奉拝覺悟之處自然即衆中御送之儀思召有之者可有御苦勞

旨存候俟夜中ニ御庭迄蓮陽房を伏同道委申置キ定而

披露可被申候左様ニ払曉有之候共端場房を始申数案早河迄

御越定而御内儀式ニ過分之至雖申參次第候内々於道中

心中ニ今度之御奇怪奉態以使者其狀之分ニ不奉言上者也不知

思ニ可□□御會式之時分別而為御法事聽聞可圍圍者

廿一止 定而其身分勇可申与心底ニ深状逼塞候雖然此國之乱世

更後日之事雖計候間者此藻原之所化之幸□□入申上候

世□□每時多御孫候間每日於當寺之御堂□□を奉拝候

此一分之信心奉參詣不申已前及卅ヶ年於京都中国茂

如此候キ申上度事万々候へ共奉期後□□候間不計有候

恐惶敬白

乙 巳卯月朔日

沙門日現 判形

進上  
久遠寺  
人々御中

六ノ三

正徳二壬辰年九月檢校之  
當山歷代等漫茶羅錄  
日亨

正徳二壬辰年九月改之

三十三世

日亨（花押）

### 歷代漫茶羅錄

一 向師

延慶三庚戌年十二月十二日  
付属弟子日進法師授与之

一 進師

建武三年丙子二月廿日時正中日  
日祥比丘授与之

一 善師

絹地天蓋蓮華之繪有之  
貞和二年十二月日

一 台師

貞治五丙午二月 日叡法師授与之  
于時至徳元年甲子 須田孫九郎宗繼

亨私云至徳ハ台師遷化ノ後ノ  
年号後人書加

史料紹介（望月）

史料紹介（望月）

院師 應安四年 辛亥十二月日

叡師 吾德佛十方分身勸法  
無年号授与

億師 善德佛十方分身勸法  
嶋坊日義授与之

学師 仏滅後二千二百二十余年未曾有大曼荼羅高祖御出世之剋顯御座處也  
応永三十二年丁未南呂

身延山久遠寺住樋澤坊日然授与之

延師 文安五年二月廿二日  
妙学奉授与之

朝師 弘安年中御筆趣如件  
明応四年乙卯正月日

末法一乗行者息災延命所願成就奉書写之者也  
廣宣流布大願圓滿求法比丘日憲蓮光坊授与之

意師 守也 永正十三丙子極月日  
圓秀日實授与之

傳師 天文九庚子卯月八日  
千部誦誦比丘今藏房日光授与之

鏡師 年号授与無之

叙師 天正二 甲戌 閏逢 閏 茂季秋嘉辰 末法相應輪圓具足之圖也  
林珧房日整教学相承之到授与之

一 整師 天正六<sup>戊寅</sup>三月三日  
一乘坊日増附与之

一 新師 天正十六<sup>戊子</sup>八月吉日  
弟子純性日賢授与之

一 賢師 弘安年中之御筆奉写之

一 道師 慶長四己亥<sup>曆九月七日</sup>  
興授与之於吟<sup>(Vv)</sup>席日護者也

一 重師 慶長八大才癸卯九月廿一日  
身延山久遠寺常住

一 乾師 慶長九年甲辰八月十三日 首題ノ下ニ青蓮華有之  
身延山久遠寺常住

一 遠師 天和二年<sup>大歲丙辰</sup>三月三日  
身延山久遠寺妙法華院常住

一 祝師 年号授与無之

一 要師 授与之弟子契約叶湛澄日觀  
元和三<sup>丁巳</sup>十二月十二日

一 深師 勸法當山列祖  
無年号

史料紹介(望月)

史料紹介（望月）

一 暹師

寬永十癸酉正月元旦有之  
弟子沙門釋如允日應

一 境師

勸法當山歷代  
無年号

一 奠師

寬文六丙午九月八日  
地書之延山常住其後為三武江首題山順德寺什物

其寺廢後  
又収延山

一 莚師

寬文十庚戌下秋中旬九  
身延山久遠寺常住

一 通師

寬文十三癸丑七月吉辰  
授与之教運坊日行

一 脱師

元和三年癸亥冬十月吉辰  
身延山久遠寺常住

一 省師

元禄十六癸未九月上瀨  
身延山久遠寺常住

歷代重幅之分

一 向師

二千二百五十余年  
日蓮聖人御本尊圖

三



進師

建武元年甲戌六月日  
法門相傳日善法師授与之  
有梵字

台師

貞治三年甲辰八月日  
俗家滿法号  
妙感授与之

台師

貞治二年癸卯二月日  
律師日快授与之

院師

貞治五年大才  
丙午卯月十三日  
比丘日音授与之

院師

貞治五年丙午三月日  
俗源實光授与之

院師

貞治五年丙午七月日  
授与之難見

院師

貞治五年丙午三月日  
比丘日津授与之

叡師

應永四年丁丑七月十一日

叡師

應永三年丙子九月  
授与難見

叡師

明德五年甲戌五月廿每日立願護之  
猿樂右衛門太郎春

一 叡師 年号授与之難見

一 叡師 年号授与之難知

一 叡師 年号授与之難見

一 叡師 明德五年<sup>甲</sup> 戌二月三日

孫四郎妻母授与之

四

一 学師 亨德四年<sup>乙</sup> 亥十一月廿八日

波木井撰津守<sup>法</sup> 号 叡信授与之

一 朝師 年号難見

日聚比丘与之

一 朝師 弘安年中御筆写之 年号判形無之

沙弥尼妙宣現安穩後善處也

一 朝師 嘉吉三年太才癸亥六月三日 此本尊判形与<sup>二</sup>六年途<sup>一</sup>異之

良寿丸授与之 持主<sup>（マツ）</sup> □□九郎右衛門吉次

嘉吉三年<sup>ハ</sup> 朝師廿二歳ノ時也

是ハ他筆歟

一 朝師筆 胎金両部繪像并注有之

天文十三甲辰仲春吉日

一 傳師

日鏡聖人為所願成就奉授与之

傳師

天文十一壬寅卯廿五日  
甲州泉之住人大木左衛門尉親秀授与之

賢師

文祿五丙申仲冬日  
善学院沙門日祐授与之

重師

慶長七年歲舍壬寅九月十三日於丹州芹生山聖福寺玄修院  
奉書之剃髮授戒弟子心性院日遠授与之

乾師

慶長十六年辛亥六月廿八日  
身延山久遠寺附弟子惠源院日祝

乾師

紺紙金泥大本尊 靈宝藏檀之本尊掛置之  
年号授与無之

乾師

慶長八年癸卯十二月二十一日  
身延山久遠寺妙法華院常住

乾師

慶長萬年第九甲辰七月十三日  
授與之身延山久遠寺附弟子心性院日遠聖人

遠師

元和萬年第二龍集丙辰仲春如意珠日  
大日本國甲州身延山久遠寺妙法華院常住本尊也

遠師

寛永萬年第五龍集戊辰臘月良辰  
授与之第二十六世知見院日暹聖人

祝師 年号授与之

奠師 寛文元年太才八月廿四日  
辛丑抹消

「越前國駒井伊勢守後室靈應院妙通日了自以藕糸織之寄進  
身延山久遠寺故書之納者也」

筵師 寛文十一辛亥孟秋上旬五  
身延山久遠寺常住

乾師大漫茶羅 慶長八年癸卯十一月十五日奉圖之  
甲州波木井郷身延山久遠寺本堂

善正院道意殿下母公瑞龍寺日秀御正室

乾師大漫茶羅 慶長萬年第九甲辰五月吉日  
大日本國甲州波木井郷身延山久遠寺

御影堂常住

脱師大漫茶羅 宗祖四百年忌

### 歷代之外

日秀師 永亨八年丙辰九月廿八日

本満寺開山玉洞明院日秀聖人非中老日秀

此秀師近衛関白從一位左大臣道嗣公御息母瀬尾氏也  
以道嗣公別居為寺名廣布山本満寺一位至僧都  
寶徳二庚午五月八日化六十八歳

一 日隆師 永祿八年乙丑五月十二日

弥富長福寺之衆寶光律師日護令授与之  
平賀本土寺歴代 第十三世永祿十二己巳五月廿六日六十八歳寂

本満寺日秀師本尊者重乾遠師之内被収之歟  
平賀本土寺日隆師本尊者収之因縁不知之

六止